

「学ぶ」は進化する？  
これからの時代に求めとめられる授業や教科の提案

自分で考えて行動する  
**考動教室の提案**

**ジャンボリミッキーズ**

小学6年 田澤里菜  
小学6年 豊岡咲希  
小学6年 久田瑠羽

# はじめに

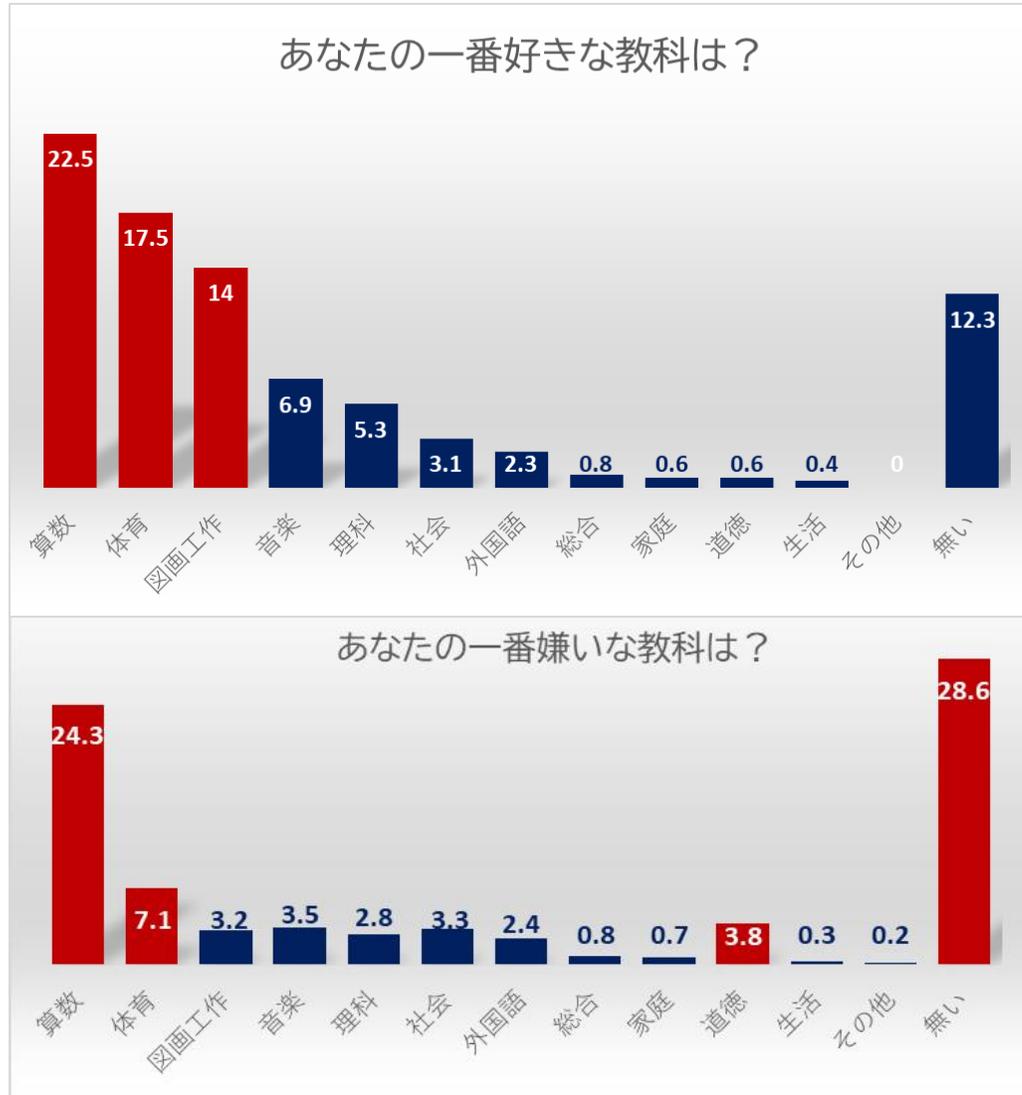
---

私たちは、「これからの時代に求められる授業や教科」を提案するため、先ず初めに学研教育総合研究所「小学生白書web版」2022年9月調査のデータを参考にしました。小学生の一番好きな教科、小学生の一番嫌いな教科では、どちらも「算数」という結果になっていましたが、私たちの学校では「算数が好きという結果にはならない」と考え、同じ学年の友達にアンケートを行いました。

私たちの学校では、将来役に立つ教科として1位になった「外国語」を嫌いな人が多く、好きな人もほとんどいないことに気づきました。そして、学校の先生へのインタビューをとおして、先生たちが「授業づくり」に様々な工夫をしていることがわかりました。

先生たちの授業づくりを参考に、新しいかたちの外国語の授業を提案したいと思います。

# 小学生の一番好きな教科、一番嫌いな教科



学研総合教育研究所が2022年9月に実施した「小学生の日常生活・学習に関する調査（小学生白書）」によると、10年連続で、小学生の一番好きな教科の1位と一番嫌いな教科の1位が「算数」でした。

一番好きな教科の2位は「体育」で、3位が「図画工作」でした。

一番嫌いな教科の2位は「体育」で、3位が「道徳」でした。また、「嫌いな教科は無い」と答えた生徒が最も多い結果になっていました。

私たちはこのデータを見て、私たちの小学校でも同じような結果になるのだろうか？と疑問に思いました。それは、一番好きな教科の1位が「算数」という結果だったことが信じられなかったからです。

私たちは同じ学年の友達にアンケートを取ることにしました。

友達18人にアンケート

# 将来役に立つと思う教科1位「外国語」、嫌いな教科2位「外国語」

私たちは同じ学年の友達に「好きな教科」、「嫌いな教科」、「将来役に立つと思う教科」をそれぞれ3つずつ選択してもらいアンケートを実施しました。

※「一番好きな教科」「一番嫌いな教科」ではなく、「好きな教科を3つ」「嫌いな教科を3つ」という聞き方にしたのは、好きな教科や嫌いな教科は一つに決められないと考えたからです。

アンケートの結果、好きな教科の1位は「社会」で、2位が「体育」、3位が「音楽」という順番になりました。

嫌いな教科の1位は「算数」で、2位が「外国語」、3位が「国語」「理科」という順番になりました。

将来役に立つと思う教科の1位は「外国語」、2位は「国語」、「算数」になりました。

## 友達18人のアンケートから気づいたこと

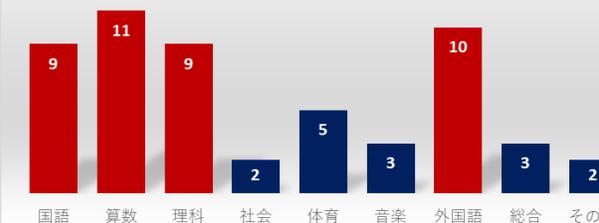
外国語は「将来役に立つと思う教科」で1位なのに、「嫌いな教科」では2位、「好きな教科」では1票しかとっていません。

私たちは、「将来役に立つと思う教科」なのに、人気なかった「**外国語**」の授業に注目しました。

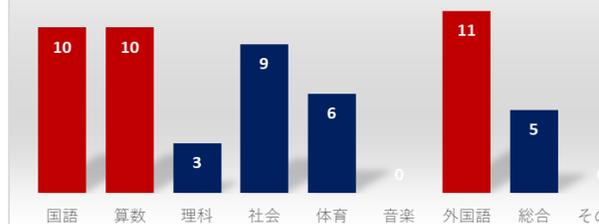
あなたの好きな教科を以下の中から3つ選んでください



あなたの嫌いな教科を以下の中から3つ選んでください



将来役に立つと思う教科を以下の中から3つ選んでください



ジャンボリミッキーズ独自調査(2023年6月調査)

# 先生へのインタビュー「これからの時代に求められる授業と授業づくりのポイント」

友達にアンケートをとる一方で、「これからの時代に求められる授業や教科」、「先生が意識している授業づくりのポイント」、を2人の先生にインタビューしました。

Q「これからの時代に求められる授業や教科」は何だと思いますか？3つ挙げてください。

A先生

国語と算数と総合です。自分の考えを持ち、友達と交流する中で新たに再構築する力を身に着けるためには国語が最も適しており、**既知から未知のことを考え問題解決をする力をつけることができる**からです。

B先生

社会と外国語と総合です。**国際化という視点でみると、外国語や総合**だと思います。国際関係や異文化を単に理解するだけでなく、自らが**国際社会の一員としてどのように生きていくかなどについて意識していくことは大切**だと思います。

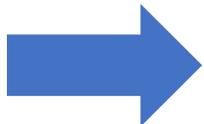
Q「先生が意識している授業づくりのポイント」とそれを行う上で気を付けていることを教えてください。

A先生

①めあてを持つ②自分の活動を選択する③自分の学習をふりかえるこれらの3つが1時間の中で行えるようにすることです。同じ目当てを持つためには自分の今持っている力を認知しなければならず、**自分の力を把握することでやりたいことをイメージすることができる**ことを気を付けています。

B先生

その教科を嫌いにならないような授業、知識のみでなく思考する授業、興味が持てるような導入、目的意識を持てるようになって行っています。そのためには、聞いているだけでなく**活動を入れる、友達とともに学ぶ、振り返りをする**ことがポイントです。



先生たちが意識している「授業づくりのポイント」を参考に新しい授業をつくりたいと思います！

# 新しい授業の提案

同じ学年の友達へのアンケートから、「将来役に立つと思う教科」1位の外国語が「嫌いな教科」では2位となっており、「好きな教科」としてあげた生徒が一人しかいなかったという結果から、最も改善が必要な教科は「外国語の授業」だと考え、新しい外国語の授業のかたちをテーマとして提案したいと思います。

そして、学校の先生へのインタビューを通して教えていただいた「授業づくりのポイント」を参考に新しい授業を提案します。

めあてを  
もつ

自分の活  
動を選択  
する

学習を  
ふりかえ  
る

自分の力を把握することで  
なりたいことをイメージする  
ことができる！

## 外国語の授業の新しいかたち

思考する  
授業

興味が持  
てる導入

友達と  
ともに  
学ぶ

外国語を  
嫌いにならない授業！

# 新しい授業の提案

なぜ外国語の授業があるかを考えてみました。先生のインタビューでB先生が言っているように国際化＝国際社会の一員としてどのように生きていくかが大事だからというのは理解することは出来るのですが、私たちにはあまり実感がありません。なんとなく、将来必要になると思いつつも、日本語だけでもなんとかなる環境で生活しているので、直ぐに出来る必要がないし、習得に時間がかかるものだとも思っています。

では、誰にも頼ることができない場面で、直ぐに英語を使う必要に迫られたらどうでしょう？「もっと早く英語を習得できるようになるのでは？」と私たちは考えました。

そこで、

私たちは、新しい外国語の授業のかたちとして

**考動教室**※ の提案をします。

※考動教室とは、考えて行動する移動教室の造語です。

英語を主要言語としている国は世界で12か国あります。英語を公用語、第二言語としている国は58か国あります。その中から日本人も多く住んでいる、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、マレーシア、香港、シンガポールに向けて5日間の英語しか話すことができない留学をする授業です。

# 考動教室の提案

## 授業の内容

目的地に向けて飛行機に乗った瞬間から授業を開始します。授業のルールは**日本語を使わないこと**です。また、目的地では現地の**食事や買い物も英語で注文**します。スケジュール内で現地の人に**日本の文化を英語で伝える時間**を設けます。日本らしいものをお土産に持っていき現地の人に**英語で説明**をします。それ以外は現地の観光を楽しんでもOK。

**授業期間** 5日間（移動を含む）

## 授業の対象

小学5年、6年生（移動教室を海外でおこなう） 小学3年、4年生は考動教室に向けた準備学習をする

## 授業の目的

外国人に通用する英語力を身につけること



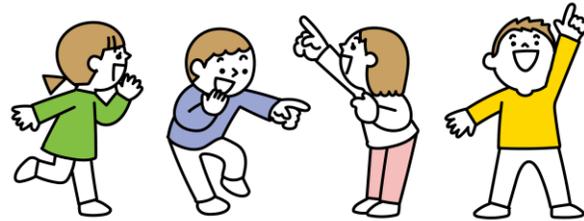
5日間の活動をとおして「自分の力を把握する」「なりたいことをイメージする」

# 考動教室の提案2

## 興味が持てる導入

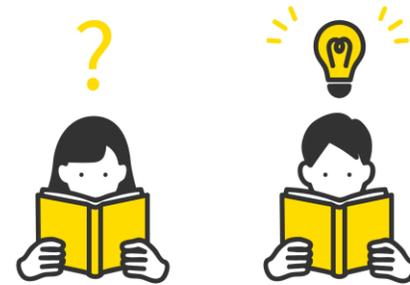


考動教室の目的地は、3、4年生に向けた6年生の考動教室報告会で、2年後に出発する4年生の代表者がダーツを投げて、刺さった場所に近い英語圏の国に決定します。(アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、マレーシア、フィリピンなど)



## 思考する授業

外国語授業がはじまる3年生から3年後を意識して外国語授業を受けることができます。外国語授業をとおして3年後にどんな英語で日本の文化を紹介したり、英語で交流をするかをイメージしながら授業を受けることができます。



## 友達とともに学ぶ

現地ではひとりひとり行動しますが、出発前までは「これって英語でどう言ったらいいの？」など、お互いに教え合いながら英語力を高めます。



## 考動教室中の安全について

小学生だけで海外で行動するのは危険だと思うので、現地に住んでいる日本人に協力してもらい、生徒一人に一人の大人が付いて一緒に行動します。生徒と協力してもらう大人も緊急の時以外は英語で会話します。

**英語を嫌いにならない授業!**

# 最後に

---

今回のレポート作成をとおして、大変だったことは3人が集まって打ち合わせがなかなか出来なかった事です。また、3人の意見もバラバラでまとめるのが少し大変でした。でも、少しずつ3人の意見がまとまってきて、それぞれ自分の意見がはっきり言えるようになりました。

瑠羽:みんなで協力しながら様々なみんなの意見を取り入れられて良かったです。

咲希:それぞれが互いのことを思って意見を言い合うことができた実感しています。

里菜:最初はみんな意見がバラバラで大変だったけど、最後みんなの納得するものが出来て良かったです。

役割分担 : レポート作成	・・・久田瑠羽
レポートのデザイン	・・・豊岡咲希
はじめにの作成	・・・久田瑠羽
生徒へのアンケート	・・・田澤里菜、久田瑠羽、豊岡咲希
先生へのインタビュー	・・・豊岡咲希、田澤里菜
データ集計	・・・久田瑠羽
最後にの作成	・・・豊岡咲希

出典 : 学研教育総合研究所「小学生白書web版」2022年9月調査  
イラスト「イラストAC」著作権フリー素材、Microsoft Bing著作権フリー素材  
PIXTA使用権許諾済素材